



## ▶▶▶ さまざまな方々から「物部川水系河川整備計画【素案】」について意見をお聴きしました!!

平成21年2月4日(水)に「物部川水系河川整備計画【素案】」を公表し、  
物部川流域学識者会議、物部川流域住民の意見を聴く会、物部川関係市長の意見を聴く会、パブリックコメント  
を実施し、多くの方々から貴重な意見をいただきました。

### 学識経験者からのご意見

### 第1回 物部川流域学識者会議

物部川流域に関して、学識経験を有する方々から意見をお聴きするため「物部川流域学識者会議」を開催しました。

本会議の委員は、流域の現状や課題等を踏まえ、「治水」、「利水」、「環境」等さまざまな分野の物部川流域に関して学識経験を有する方で構成しています。

【開催日時】  
平成21年2月10日(火)  
14:00～17:00  
【開催場所】  
南国市商工会館  
【出席者】  
10名  
【傍聴者数】  
17名

#### ■物部川流域学識者会議委員(五十音順・敬称略)

氏名	専門分野	氏名	専門分野
石川 慎吾	植物生態学	重山陽一郎※	景観デザイン
石川 妙子	水生生物	高橋 勇夫	河川生物
一色 健司	水質化学	藤本 眞事	歴史文化・地理
大年 邦雄	河川・防災工学	松本 伸介	農業施設工学
岡田 将治	河川・防災工学	渡邊 法美	環境マネジメント
笹原 克夫	砂防学		※)欠席された委員



### 関係住民からのご意見

### 第1回 物部川流域住民の意見を聴く会

関係住民の多くの方々から様々な意見をお聴きするため、流域内の3箇所で開催しました。

- ◆香美市
- ◆香南市
- ◆南国市

(※上記は開催日順です)



■香美市会場  
【開催日時】平成21年2月14日(土)  
14:00～16:50  
【開催会場】プラザ八王子  
【参加者数】29名



■香南市会場  
【開催日時】平成21年2月15日(日)  
9:30～11:30  
【開催会場】高知県立青少年センター  
【参加者数】14名



■南国市会場  
【開催日時】平成21年2月15日(日)  
15:00～16:30  
【開催会場】南国市商工会館  
【参加者数】8名



### パブリックコメント

多くの方々から意見をお聴きするため、平成21年2月5日から同3月6日の間に、ハガキ、電子メール等により、意見の募集を行いました。電子メール3通、ハガキ14通、意見用紙5通、封書3通、FAX1通の合計26通の投稿より、70件の意見をいただきました。

### 関係市長からのご意見

### 第1回 物部川関係市長の意見を聴く会

関係市長から様々な意見をお聴きするため、「物部川関係市長の意見を聴く会」を開催しました。

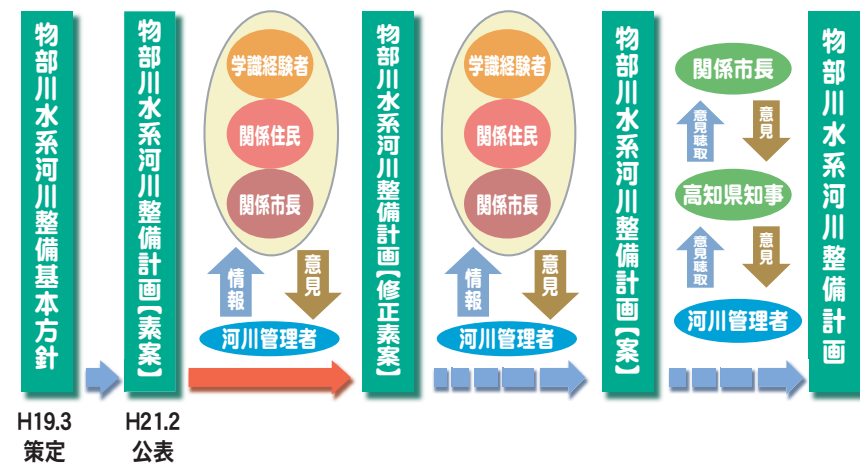
#### ■物部川関係市

- 高知市 南国市
- 香南市 香美市

【開催日時】  
平成21年2月18日(水)9:30～11:35  
【開催場所】  
高知県立青少年センター  
【出席者】  
高知市長(代理)、南国市長、  
香南市長、香美市長  
【傍聴者数】  
18名



## ▶▶▶ 物部川水系河川整備計画策定の流れとこれからの進め方



物部川水系河川整備計画【素案】や配布資料等は、ホームページで見ることができます

### □ホームページによる情報提供

会議等の結果や資料については、ホームページで情報提供を行っています。下記のサイトにアクセスしてご覧ください。

物部川水系河川整備計画【素案】や配布資料等はダウンロードできます。

ホームページで  
見ることができる資料



- 各会議での配布資料
- 議事録
- ニュースレター

<http://www.skr.mlit.go.jp/kochi/river/monobeseibikeikaku/index.htm>



# 「物部川水系河川整備計画(素案)」に対する主な意見要旨

## 主な意見

物部川水系河川整備計画【素案】について、物部川流域学識者会議、物部川流域住民の意見を聴く会、物部川関係市長の意見を聴く会やハガキ等で合計176件の意見をいただきました。

分類	意見数	割合
◆河川整備の基本理念	5件	2.8%
◆河川整備計画の対象期間等	3件	1.7%
◆洪水、高潮等による災害の発生防止または軽減	32件	18.2%
◆河川の適正な利用および流水の正常な機能の維持	53件	30.1%
◆河川環境の整備と保全	38件	21.6%
◆今後に向けて	21件	11.9%
◆その他	24件	13.6%
計	176件	

### ◆河川整備の基本理念

- ・土佐の産業や生活、自然環境、景観等の観点から見ても、4百年後の県民が「なんだこれは」という川づくりにならないようにして欲しい。
- ・清流保全条例との整合は取れていると思うので、更なる連携により、物部川を清流に戻してもらいたい。
- ・河川整備計画の目標にある「必要に際して関係機関と連携し」については、今すぐにやらなければいけないことである。
- ・整備計画の数値目標、年次計画、優先順位をどう決めるのか。アクションプランを示さないと分からない。

### ◆河川整備計画の対象期間等

- ・整備計画対象期間の30年の間でも見直しをしながら進めて欲しい。
- ・中間目標値(マイルストーン)がないので、途中で事業の検証・評価ができない。

### ◆洪水、高潮等による災害の発生防止または軽減

#### ●洪水を安全に流下させるための対策

- ・下の村の引堤の必要性は認識しており、早期完成を願っている。また、洗掘が進んでいる場所があり、対策を急ぐ必要がある。

#### ●大規模地震・津波対策

- ・大規模地震対策の整備効果について、はん濫区域の低減等わかりやすい指標を示す必要がある。

#### ●河口部の維持管理

- ・河口閉塞の具体的な対策はあるのか。抜本的な対策が必要だと思う。
- ・あまり環境を破壊しない方法で河口閉塞をさせない方策はできないか、研究して欲しい。

#### ●ダム維持管理

- ・近年、多量の土砂が永瀬ダムに流入している。貯砂ダムもあるが、貯水池の容量を維持するためには、継続的な土砂の撤去が必要であると思う。

#### ●浸水被害軽減策および危機管理体制の整備

- ・洪水前後の水位の比較だけでなく、CCTVを活用する等洪水時のデータを収集し、それらを活用して堤防や護岸の整備や補強を検討する必要がある。
- ・国、関係市町村、高知市も含め、破堤した場合のソフト対策も盛り込んで欲しい。また、流域住民や自治体、水防団等へ避難情報等を円滑に伝達する方策の検討が必要である。

### ◆河川の適正な利用および流水の正常な機能の維持

#### ●流水の機能の維持

- ・維持流量が設定されることは良いことだが、治水や利水の計画では、永瀬ダムの果たす役割が大きく求められており、容量が確保できるかが運用段階の課題である。
- ・流水の正常な機能の維持について、目標の1トンはかなり問題がある。アユの生態等を考えると維持流量とは言いえない。1トンでは現状維持程度であり、統合堰の魚道に水が流れず魚類等が遡上できないなど問題がある。
- ・維持流量について、最低1トンと決めたことはゼロよりはましだが、この1トンという数値を何年に1回かは見直すのか。

#### ●適切な流水管理

- ・農業用水では水路の老朽化が問題になっており、適切な補修で無駄を排除し、少しでも物部川の流量を増やす必要がある。
- ・農業用水路に水がないと塩化が起るので、水が必要であるが、堰をつくって水をせき止め、1~2日に一度どっと流すことによって水の鮮度は保ちながらどんどん流さなくてもいいというような方法は考えられないのか。

#### ●水質の保全

- ・水質監視では、BOD以外の多面的な評価指標を設定し、環境に与える影響を見ていくことも大切である。

#### ●水質保全対策

- ・濁水の原因は山崩れであり、山崩れ部分からの土砂流出が深刻な問題であるが、物部川の源流は地質的にも、地滑り的なものは森林整備だけでは対処できない。山崩れの影響を低減させることを考える必要がある。
- ・山地が未整備だと、長期濁水により川の環境を底支えている水生生物がいなくなる状況が再発する。30年間の長期計画であり、流域の環境整備の枠組み(河川の周辺や流域の森林整備、住民への啓発、省庁を越えた連携等)を含めた計画として欲しい。
- ・永瀬ダム上流の濁水の長期化を改善して欲しい。一時的な濁水は仕方ないが、洪水後に清水で土砂を洗い流すことで生物への影響を少なくし、10日でも5日でも期間を短くして欲しい。
- ・濁水対策検討会では、具体的な濁水対策を議論すべきであり、河川整備計画にその成果を反映させる必要がある。

### ◆河川環境の整備と保全

#### ●動植物の生息・生育・繁殖環境の保全・再生

- ・『動植物の生息・生育・繁殖環境の保全・再生』において、清流環境が著しく壊れているという認識が必要であり、「再生をめざす」とすべきである。
- ・治水、利水は地域住民のためには大切だが、人間の利便性を重視してきたので、昔の豊かな環境(生物の多様性等)の再生、共存のできる整備をして欲しい。
- ・物部川での多自然川づくりの本質がどこにあるのか、物部川ならではの色彩がでるもの考える必要がある。
- ・生物の多様性について、より具体的な表現で整備計画に記載して欲しい。
- ・樹林化は、みお筋の固定化によって、加速度的に進んでおり、地域の生物多様性の面でも非常にマイナスである。樹林化の進行に伴い、外来種も増え、特定外来種に指定されている繁殖力の強いものも生育しており、取り除く必要がある。
- ・水際の緩勾配化等、生物が行き来しやすい環境を創出して欲しい。
- ・自然再生も河床の改善では、深さがあるところや何層もの石がある川を創出するなど、生き物にとっても住みやすい川づくりをして欲しい。
- ・河床形態のモニタリングは、粒径を見ながら考える必要がある。水温にも着目する必要がある。
- ・物部川は他に類のない河口まで玉石の河川である。アユやウナギ、カニ等の生息に良いこの状況が変化しないようにして欲しい。
- ・河口部の深掘れを解消しないと、どんどん河口閉塞が進行し、海と川とのつながりが無くなり状況が悪化する。
- ・統合堰では、水が無い状況が発生し成魚の降下や産卵も困難になっている。魚道の付け替え等を考えて欲しい。
- ・魚類等の生息に必要な流量の放流等、ダムの活用を考えて欲しい。
- ・河川工事を行う際には、湧き水の調査を行い、生物の生息空間の支えとなる湧き水を消失させないようにして欲しい。
- ・水生生物について、意味のある調査を実施し、物部川の現状をもっと的確に把握して欲しい。

#### ●河川景観の維持・形成

- ・河川構造物等の整備にあたっては、「河川景観の形成と保全の考え方」に沿って河川景観の形成と保全がはかられるよう努めて欲しい。
- ・水、砂、石、が調和した河川景観が形成され、水に触れることができる物部川の環境を復元することを考えて欲しい。

#### ●河川空間の利用

- ・川に入ることが、川の中を知ることにつながる。川に入れるような川づくりをして欲しい。
- ・堤防補強した箇所等は、きれいで、人が行きたくするようにして欲しい。

#### ●地域と一体となった河川管理

- ・物部川にはたくさんの市民や県民も来ており、河川に関わる活動を地元と一緒に進めて欲しい。
- ・物部川を母なる川として地元と一体となって育てて欲しい。

### ◆今後に向けて

#### ●情報の発信と共有

- ・人が川といっしょにいるための教育や情報を提供すべきである。

#### ●地域住民、関係機関との連携・協働

- ・物部川全体の自然を残し、清流の川として、後世に引継いでいくことが一番重要な問題ではないか。そのためには、山地の崩壊、山を自然にもどす、山地崩壊しない山にもどすために、ボランティア等を含めて取り組みが必要と考える。
- ・山地崩壊により、永瀬ダムの貯水容量は減っている。山が滑った後の災害復旧には何十億円も必要となるが、災害前に山の手入れをすれば、何十万円でも済む。関係機関が連携して取り込んで欲しい。
- ・河川管理者が地域の取り組みに参加することが減っている。もっと川の中や流域など、奥を見て欲しい。

#### ●河川整備の調査・研究

- ・稚魚が流下する際の流量や遡上する時の流量など、様々な調査を実施している。その結果を今後の整備等に活用して欲しい。

### ◆その他

#### ●流域対策

- ・山を守り、つくっていくことが必要であり、現状では水源涵養や土壌の管理も不十分である。もっと山を見て欲しい。自分が参加することでわかっていくものであり、山の管理では1度現場を見てもらいたい。

#### ●その他

- ・川は川にしかつくることできないため、計画どおりに実施は難しい。専門的な検討だけでなく、関係住民の感覚を踏まえた対応がプロフェッショナルとして必要ではないか。
- ・意見を1~2回聴いてもダメであり、住民と一緒に取り組むことを河川管理者に一生懸命やって欲しい。お互いに譲歩するところは譲歩し、お互い学びあう所は学び、物部川方式でやって欲しい。

#### おこたわり

物部川水系河川整備計画【素案】に対する意見を詳しく知りたい方は、ホームページに掲載の各会議の議事録をご覧ください。主な意見要旨では、類似の意見等について主旨を変えない範囲でまとめて整理し、掲載しておりますことをご了承下さい。